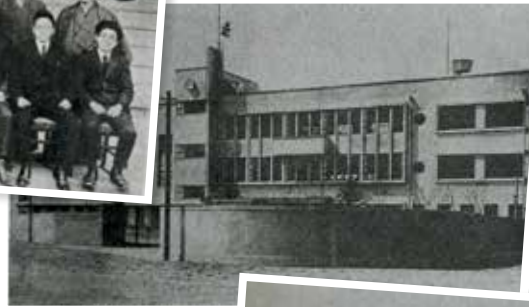


# ちぬ



浪華南華學校歌  
一鳴呼六甲の朝風の  
玲瓏波の水澄みて  
生風溢る我が母校  
ニ茲に暮るる若人の  
眞理の教訓極め  
理想の啓示聖堂  
やがては満つる新月に  
ONISと浴び合す  
我が校章を胸に  
四時来りて男の姿も  
平和の箭を執り持ちて  
語り継ぐ可き名を  
玉葉の餘風に乗るを  
其の名も亦が歴史に  
刻みこめんとす



特集

## 100 周年プロジェクト特別対談 野田賢治 × 清水俊彦

Contents

- 100 周年記念プロジェクト続々進行中！
- 学園創立 100 周年記念事業
- 組織風土改革プロジェクト
- 設置校トピックス



対談

## 野田 賢治 × 清水 俊彦

浪商学園 理事長

大阪体育大学浪商高等学校・中学校校長

司会／進行：細川明雄・  
浪商学園法人事務局長

## Interview

浪商学園は2021年に学園創立100周年を迎えます。それに関連して記念プロジェクトが2018年に本格的にスタートします。これからの浪商学園をどのように発展させていくのか。創立以来の歴史をふりかえりながら、野田賢治 浪商学園理事長と清水俊彦 大阪体育大学浪商中学校・高等学校校長に語っていただきました。

—— 学園創立100周年にむけて学園報「ちね」やホームページを作成して、学園を活気づけ、より一層盛り上げていきたいと思っています。まず学園の創立のいきさつからお話ししていただけますか。

**野田** 学園は1921(大正10)年に浪華商業実修学校として大阪市南区(現天王寺区)に生まれました。にぎやかな商都、大阪に各地から小学校を終えて集まってきた丁稚たちに商業、簿記、貿易など実務を教えるという、時代の要請に応えたものでした。

青少年の健全育成にも努めようと体育、スポーツも重視し、野球では開校5年後の大正15年の全国中等学校野球大会に出場しています。

昭和9年11月、夜間の授業中に出火し、校舎は全焼。学校関係者が必死に資金を集め、1年後に再建は果たしました。その後、戦時下に強制的に工業学校への転換を迫られたほか、戦争で再び校舎が焼けるなど苦難の道を歩んできました。

野球について言えば昭和12年4月、選抜で初の全国制覇を果たし、大阪に初めて優勝旗をもたらしています。戦後すぐの昭和21年の夏の甲子園でも優勝しています。

**清水** そうでしたか。大阪に初めて優勝旗をもたらしたことは知りませんでした。浪商と野球は切り離せない存在ですね。

**野田** いつの時代でも教員集団の情熱には感心させられます。いまも一緒でしょうけど。私は浪商学園六十年史をつくる際に、編集委員に加わり、あらゆる資料を収集しました。これをもと

に100年史をつくりたいですね。

—— 学園にとって最大の転機は平成元年、茨木市から熊取町への移転でした。

**野田** 茨木市の校地に大阪体育大学が併設し、学生も増え、敷地が狭くなってきました。当初、高槻市内に移転を検討していたのですが、河川改修費用など問題も生じ、断念しました。昭和59年2月ごろでしたか、前理事長は、大阪府の幹部と一緒に熊取町の南海電鉄が開発準備中の用地を見学し、大阪湾に沈む夕日の美しさに心打たれ、この地への移転を決めました。

**清水** 私が学園に勤めたのがその年です。すぐに移転準備が進められ、昭和62年には中高の校舎ができましたが、正門までの道は舗装されておらず、雨の日はドロドロになって通ったことが印象に残っています。

**野田** 大学は最低限の必要な設備に限り、体育館、グラウンドと一つずつ10年かけて充実させました。教室にも事務室にも当初、クーラーはありませんでしたよ。

**清水** 移転して最初の年度は、6クラスの募集に12クラス分の生徒が集まりました。その対応が大変でしたね。

**野田** 15歳人口がピークのころですね。

**清水** 移転したわ、応接室がないわ、わあ、どないしょ、という感じでしたね。でも新たなスタートを切っていこうというみんなの思いで乗り越えられました。

**野田** 12クラス分を8クラス分に減らしましたが、当時の大阪府私立中学校高等学校連合会の取り決めで、定員枠をしっかりと守らないといけない、との思いが強かった。あの12クラスのままであれば、よかったのに、もったいない気がします。地元の期待感も十分に受け止められませんでした。

—— 北摂から泉州へと風土も文化もずいぶん違いますね。私などは泉州弁や和歌山弁もわかりませんでした。

## 「浪商学園の100年の歴史の重みを受け止めたい」

清水 俊彦 しみず としひこ

昭和59年浪商高等学校(現大阪体育大学浪商高等学校)に奉職。科目は理科。

平成27年4月に大阪体育大学浪商高等学校 第12代校長、大阪体育大学浪商中学校第11代校長に就任。同年より学校法人浪商学園評議員にも就任。



# 「5年、10年先を見て、 教育はどうあるべきか 根本に踏みこんで考える」

**野田** 「だんじり」のときはおもしろかった。平日、ごっそりと無断欠席がでてきたのには驚いた。

**清水** 地元の祭だから学校は休んで当たり前、という文化がありましたね。(笑)

—— いよいよ100周年に向けての活動を本格的に始めます。

**清水** 中高の校舎は手狭になり、中庭にあるプレハブ校舎も老朽化しています。2018年4月の使用開始を目指して、特別教室棟が新築されます。アクティブ・ラーニングのための多目的教室や音楽室、美術室ができるので期待しています。それにプラスして立派なエントランスができるのも楽しみです。

**野田** 要は100周年事業を日々の活動に落とし込むことが大切です。

**清水** はい。100周年事業で学園が元気になるようにやらないといけませんね。いまの計画では、野球、バスケット、サッカーなどのスポーツを切り口に他校との記念試合をやるつもりです。野球では和歌山の箕島、法政二高(関東)などと対戦できれば、と準備しています。

—— 学園の将来を考える「NEXT100構想有識者会議」を2017年に2回開きました。学園のホームページの作成にも取り組みます。90周年のときと比べながら、いま、考えておられることは。

**野田** 自分の頭で考えるのは、どうしても限界があります。外部の世界の人たちに浪商学園がどうなったらいいか、知恵を集めたい。それも教育現場以外で、時代の先端にいる人たちからの意見も聞いていきたいですね。会議のメンバーも固定せず、出入り自由がいい。

**清水** 一つは、泉州地域の進学校として定着を図っていくこと。二つ目は、大阪のスポーツエリート校としての存在感を示すこと。それに向かって努力していきます。明治維新後150年を迎えますが、浪商学園の100年の歴史の重みを受け止めたい。

**野田** これから100年を見通すのは難しいが、せめて5年先、10年先を見て、教育はどうあるべきか、考えたい。グローバル化とはなにか。ICT(情報通信)教育はあくまで手段であって、教育の根本的なことを踏み込んで考えなくてはなりません。

—— 学園全体の将来構想については。

**野田** 浪商学園は100年、浪商幼稚園は70年、大阪青凌中学校・高等学校は30年の伝統をつちかってきた。いい教育をやってきたし、もっと発展しなくてはならない。

現在、高槻市前島にある青凌を大阪府島本町(サントリー研究センター跡地)に移転し、2020年4月に開校します。駅から徒歩圏内と通学に大変アクセスのいい環境にあり、思い切って移転することにしました。これから人口減少がすすみ、都市も消滅していく。人を呼ぶより、人が集まるところに動いていくことも考えなくてはなりません。

幼稚園は定員枠を増やし、英語教育に力を入れ、特徴を出していきたい。

大学経営も大変だが、体育、スポーツを軸にしている方針を変える必要はない。それを中心に例えば障がいを持った人たちのスポーツ、スポーツマネジメント、経済、工学、福祉などの分野に広げて教育を展開していきたい。

とにかく学園内の設置校全部が元気にならないといけません。経済的な自立性を保ちながら、発展させていきたい。

—— どうもありがとうございました。

**野田 賢治** のだけんじ

昭和53年学校法人浪商学園に奉職。

昭和61年に常務理事、平成15年に理事長就任。

平成16年10月より大阪私学経営者協議会(元会長)顧問に就任。

平成20年4月より大阪私立中学校高等学校連合会 顧問に就任

(元会長)。平成24年4月より文部科学省大学設置・学校法

人審議会 学校法人分科会特別委員を務め、26年4月より

委員に就任。



## 100th Anniversary projects

100周年プロジェクト、続々進行中！

## 学園創立100周年記念委員会

2021年度に迎える「学園創立100周年」に向け、種々プロジェクトが発足しています。その一つとして、学園が一枚岩となって活動を行うための企画立案やイベント活動を検討する「学園創立100周年記念委員会」が本格的にスタートしました。委員会では2021年までの企画・イベントのロードマップについて話し合いが行われ、まず、学園・100周年記念サイトの立ち上げと100周年ロゴの作成を行いました。各設置校では独自のイベント開催に向けての企画・検討が始まっており、今後は各設置校での取り組みをサイトで紹介し、卒業生の皆さまへの積極的アピールを図ります。

## 学園創立100周年記念委員会 構成員

総括  
責任者

西尾 一実(学校法人浪商学園法人本部長)  
細川 明雄(学校法人浪商学園法人事務局長)

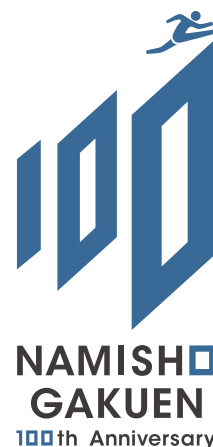
## 委員

清水 俊彦(大阪体育大学浪商中学校・高等学校校長)  
福力 稔(大阪青凌中学校・高等学校校長)  
佐々木 悟(大阪体育大学浪商幼稚園園長)  
淵本 隆文(大阪体育大学体育学部学部長)  
植木 章三(大阪体育大学教育学部学科長)  
長崎 正巳(大阪体育大学大学事務局長)  
村田 剛(学校法人浪商学園総務部部长)  
平石 雅彦(学校法人浪商学園財務部部长)  
石川 朋広(学校法人浪商学園企画広報室室長)

## ロゴマークについて

浪商学園は「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神のもと、幼稚園、中学校、高等学校、大学、大学院の教育を通し、社会に役立つ人材教育に努めてまいりました。浪商学園を巣立った多くの卒業生たちがさまざまなフィールドで活躍していることは、大変喜ばしく、大きな誇りです。

先人たちが築き上げた100年の歴史に敬意を払うとともに、新たな100年へのステージに向け、これからも走り続け、時代の要請に応えるべく魅力ある教育機関として、更なる成長と発展を目指すという決意がこのデザインに込められています。



## 学校法人浪商学園ホームページ、100周年記念サイト



学校法人浪商学園ホームページ：<https://www.namishogakuen.jp/>



100周年記念サイト：<https://www.namishogakuen.jp/100th/>

2017年11月15日(水)、学校法人浪商学園ホームページ、100周年記念サイトを開設しました。今後、学園、創立100周年記念事業に関する取り組みや事業などを発信してまいります。

## 浪商学園創立100周年記念事業募金

2018年度から奨学基金設立、課外活動支援、施設の新築・整備を柱とした「浪商学園創立100周年記念事業募金」を開始いたします。本学園で学ぶ園児、生徒、学生の健やかな成長のため、また、豊かな教育環境を恒常的に提供できますよう、皆様方のご協力をお願いいたします。詳しくは浪商学園100周年記念サイトで今春頃にご紹介予定です。

## 大阪体育大学浪商高等学校 特別教室棟建設進捗状況



2017年7月21日(金)から少しずつ撤去が始まり、見慣れた花壇や植栽が全てなくなりました。8月中旬ごろには、大きな変化はまだ見えませんが、仮設通路や仮設階段などが設置され、工事は着々と進んでおります。11月初旬から鉄骨建方作業に入っています。完成まで、あと3か月を切りました。

## 大阪青凌中学校・高等学校 島本町に移転

大阪府島本町(サントリー研究センター跡地)に校地を移転します。開校は2020年4月予定。JR島本駅から徒歩圏内と通学に大変アクセスの良い環境です。

「校舎移転特集Next Rising!」として「ココロコミュ 私立中学校の魅力サイト」<http://cocorocom.com/archives/5302>でも紹介されています。



### 組織風土改革プロジェクト

創立100周年そして学園の未来永劫の発展のため、常に学園が持つ課題を認識し、解決のため困難を恐れず立ち向かう実行力のある事務組織を目指して、「組織風土改革プロジェクト」が発足し、初年度の平成28年度は、学園で働く事務職員のあるべき姿「事務職員行動指針」を策定しました。今年度については策定した行動指針を浸透させていくための具体的取り組みの提案を行うため、前年度のメンバーの想いを受け継いだ新しいメンバーが奮闘しました。

メンバーが持ち寄った14項目の取り組みの中から、効果や取り組みやすさ等の観点から活発な議論をした結果、今年度は4つの取り組みを行うこととし、12月18日の管理職会議で発表しました。



今年度の具体的取り組みは以下の4つです。

- ① **ノー残業dayの実施** ～働き方改善による業務効率のアップ～
- ② **健全で快適な職場づくり** ～デスクの乱れは心の乱れ～
- ③ **行動指針の浸透** ～浪商学園事務職員のあるべき姿～
- ④ **財務状況勉強会** ～決算書から読み解く浪商学園の今とこれから～

今後この4つの取り組みを進化・深化させていくと共に、平成30年度以降も新たな取り組みを進めていきます。本プロジェクトと研修会等による人材育成・能力開発を通じて、教職協働による学園全体の一体感醸成の起点となるべく活動を進めてまいります。組織風土の改革に向けた良いアイデアがありましたらプロジェクトメンバーまたは総務部までお願いします。

## Topics

### 大阪体育大学浪商幼稚園

#### 園児の健康と安全を配慮した施設・設備の充実

夏休み中に、4年間ステップバイステップで進めてきました園のバリアフリー化がほぼ完了しました。16本あるピロティエ支柱のうち、人工芝を敷き詰めたミニ広場横の2本は、アクリル円柱でカバーし、中に約2000個のカラーボールを詰めました。「幼



稚園は個性溢れる園児・保護者・教職員がひとつになってこそ」そんな思い・願いを表現しています。また、経年劣化した遊具3種を撤去し、入園したばかりの年少児やプレスクールの子ども達が安全に遊べる様にHAGS社(Made in Sweden)の遊具を設置しました。その他にも夏場の日当たりが強い通路にオーニング(日除け)の設置や、鉄棒から落下による怪我を防ぐために人工芝のエリアを伸ばすなど、園児の健康と安全を最優先した構築を更に進めています。



### 大阪青凌中学校・高等学校

#### 卒業生講演会

12月21日(木)、本校内部進学卒業生を招いて、卒業生講演会を行いました。今回の講演者は、本校で6年間を過ごした後、現役で国立大学医学部に合格した卒業生です。当日は、自己紹介に始まり、中学時代の思い出、高校時代の様子、大学での研究内容という流れで進行しましたが、最後の質問コーナーでは、様々な質問が飛び交い、また先輩からの逆質問などもあり、大いに盛り上がりを見せました。終了後、生徒達は先輩にお礼の手紙をしたため、また後日先輩からも返事をいただくなど、世代を超えての交流が深まり、大変有意義な機会となりました。



#### 総合学習 私の選んだ道



高3学年は、入学以来、プレゼンテーション力の養成に力を入れてきました。総合学習では、グループによる課題の研究・考察を行い、最後には必ず発表するというスタイルをとってきました。高校3年次は、今までの集大成として、また、一歩進んだ活動として、「自分の選んだ道」をテーマに個人で準備し、全校集会で後輩の前にプレゼンテーションを行いました。学年代表として選出された2名のテーマは「法律を学ぶ意味」と「総合情報学部について」でした。個人で、しかも全校生徒を前にしてのプレゼンテーションでしたが、堂々とした発表で後輩達も進路選択を控えた時期ということもあって、皆真剣に先輩の発表を聞いていました。

### 大阪体育大学浪商中学校・高等学校

#### 英語力向上パッケージプラン～ALTの本格導入



英語の4技能が重視されていることを踏まえ、浪商中学では2学期よりALTを採用しました。演習の時間を活用し、I・II類コースでは週2時間、標準コースでは週1時間ALTが授業に入っています。また、リラックスしたなかで英語に触れ合おうということで昼食時にALTがHR教室に入り生徒と一緒にご飯を食べています。この取り組みを本校ではイングリッシュランチと呼んでいます。生徒たちは授業とは違い、笑顔も多く和気あいあいと会話にチャレンジしています。さらに、イングリッシュカフェと名付けALTや外国語教員とフリートークができるスペースを設けていきたいと考えています。今後も授業という枠にとらわれず学校行事やボランティア活動等でも積極的にALTを活用し生徒の英語力向上をめざしていきます。

## 2017年 学外クラブの活躍

学外クラブとは本校のクラブにはないスポーツ活動で、学内と同等以上の活動を行なっている等、複数の一定条件を満たした活動に適用される制度です。今年度はボクシング3年生2名、空手2年生1名、1年生1名、競技エアロビクス1年生1名の合計5名が承認され、活動しています。

ボクシングでは3年生の布元君が全国選抜大会ベスト8、全国高校総体、国民体育大会に出場。競技エアロビクスでは1年生の南さんが日本ユース強化指定候補選手として各大会で活躍。空手では2年生の中田君が8月に開催されたドリームフェスティバル全国大会軽量級部門において、大会三連覇を達成。1年生の後迫君は同じ大会の重量級部門で史上最長となる大会9連覇(小学校2年生から現在まで)を達成しました。また11月に開催された2017 新極真会全オーストラリア大会に日本代表として出場。高校1年生でありながら、一般男子中量級に出場し優勝、技能賞も受賞しました。その後、軽量級、中量級、重量級の王者同士で争う試合でも見事勝利をおさめ、グランドチャンピオンに輝きました。



空手ドリームフェスティバル重量級 九連覇の後迫君



空手ドリームフェスティバル  
軽量級 三連覇の中田君

学内のクラブ活動に負けない活躍、実績を残しつつある学外クラブの活動。体育、スポーツを支援する大阪体育大学浪商高等学校ならではの制度であり、学内のクラブ活動にも大きな刺激となっています。2021年の100周年に向けて、学内外で浪商スポーツを盛り上げていきたいと思えます。



## 大阪体育大学(大学院・体育学部・健康福祉学部・教育学部)

### スポーツ庁より「平成29年度大学スポーツ振興の推進事業」を受託

9月14日(木)、スポーツ庁が「大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業(大学スポーツ振興の推進)」を委託する大学8校を発表。本学も採択校となりました。

採択された4つのプロジェクトを柱に、スポーツ局を中心に全学体制で統括管理を行います。

- 1) スポーツ分野の統括業務の実施
- 2) 大学スポーツ・アドミニストレータの配置
- 3) 大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施
- 4) 学産官連携協議会への協力

詳しい事業内容は、各ホームページをご確認ください。

大学ホームページ:[https://www.ouhs.jp/press/release/pr\\_17\\_09\\_14/](https://www.ouhs.jp/press/release/pr_17_09_14/)

大体DASHホームページ:<http://ouhs-dash.jp/>

#### 平成29年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学一覧

大学名	取組の具体例
1 青山学院大学	・青学オリジナル駅伝大会の実施 ・大学施設を拠点としたプロバスケットチームのホームアリーナ化の更なる取組
2 大阪体育大学	・スポーツ局の開設とスポーツ振興事業の統括、大学間連携の推進 ・地域やスポーツ団体との連携による社会貢献型事業の推進
3 鹿屋体育大学	・スポーツアドミニストレーション部局の創設 ・鹿屋体育大学と地域共同によるスポーツ・健康ブランドの創設
4 順天堂大学	・順天堂スポーツ推進支援センター(仮称) ・パラスポーツ体験教室の実施やパラスポーツ用品の開発
5 筑波大学	・アスレチックデパートメントの設置 ・テンブル大学との協働によるスポーツアドミニストレータの育成 ・外部資金調達に関する検討
6 日本体育大学	・日体大アスレチックデパートメントにおける運動部担当係の創設 ・マイナー競技のスポンサー獲得に向けた取組
7 立命館大学	・大学間の連携、大学横断的組織としての関西コンソーシアムの検討 ・スポーツ活動と学修活動の両面の高度化に資する取組みの支援
8 早稲田大学	・学生アスリートの学業成績分析とWAP(※)検証・投資誘発戦略の検討 ・大学スポーツ・アドミニストレータ育成プログラムの開発 (※) 早稲田アスリートプログラム

スポーツ庁ホームページより

### 「大阪体育大学大学院開設25周年・博士後期課程開設15周年記念式典」を開催



10月28日(土)、本学L号館で「大阪体育大学大学院開設25周年・博士後期課程開設15周年記念式典」を開催しました。当日は台風が近づくあいにくの天候でしたが、200名を超える多くの卒業生、関係者、教職員、大学院生の皆さまにご参加いただきました。

岩上安孝学長、前島悦子大学院研究科長の挨拶の後、金子公宥大阪体育大学名誉教授による基調講演を実施。「大学院開設草創期について」と題してご講演いただきました。金子名誉教授は平成4年に西日本では初となるスポーツ系大学の大学院創設、平成13年の博士後期課程設置に、大学の中心となって奔走されました。講演では当時の苦労話やエピソードを、ユーモアを交えて披露いただきました。会場からも当時を思い出されたのか、笑い声やうなずき姿が見られました。そして、これからの大学、大学院を担う後輩たちに向け、温かい激励もいただきました。

記念シンポジウムでは「未来を照らす考動一大阪体育大学の歩みと展望」と題し、司会を土屋裕睦教授、パネリストとして前島悦子教授、藤本淳也教授、浜田拓教授、石川昌紀教授が登壇しました。それぞれの研究について述べた後、大学院としての取り組み、今後の展望や役割についてなど、フロアを交えて時間いっぱいまで活発な討議が繰り広げられました。懇親会では卒業生も多く参加し、大阪体育大学大学院のさらなる発展に期待が寄せられました。





100周年記念  
グッズ



第1弾記念グッズを作成しました。  
授業、会議、出張などで是非ご活用ください。

浪商学園報 **ちぬ** Vol. 52  
**CHINU**

Osaka University of Health and Sport Sciences / OUHS Namisho Junior and Senior High School /  
Osaka Seiryō Junior High School and Senior High School / OUHS Namisho Kindergarten



学校法人浪商学園 学園報 **ちぬ** No.052 平成30年2月5日発行

発行者：学校法人浪商学園 企画広報室／発行責任者：石川朋広  
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1  
TEL 072-479-3111 FAX 072-453-8972  
学園ホームページ：https://www.namishogakuen.jp/  
印刷・製本：株式会社毎日新聞大阪センター